

【評価実施概要】

事業所番号	2796500011
法人名	株式会社 カームネスライフ
事業所名	グループホーム ここから堺たんぼぼ村
所在地	大阪府堺市北区中村町198-1 (電話) 072-240-5001
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ 大阪支店
所在地	大阪市中央区本町4-4-24 住友生命本町第2ビル3階
訪問調査日	平成19年6月26日

【情報提供票より】(平成19年6月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 12月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 6人, 非常勤 10人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(6月22日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	6	要介護2		4	
要介護3	3	要介護4		3	
要介護5	2	要支援2		0	
年齢	平均 82歳	最低	64歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人大泉会 大山病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、大阪府及び奈良県下でグループホームを複数運営するここからグループのひとつである。入居者の満足度及びサービスの質の向上に向けて、職員は試行錯誤しながらも、前向きに研鑽を重ねている様子が窺える。「家庭的な雰囲気・穏やかな生活・いつも笑顔」をホーム独自の理念に掲げ、職員の穏やかで丁寧な対応の下で、入居者はゆっくりと日常を過ごされている。日中は、体操を行ったり、天候のよい時には散歩や買い物に出かけたり、近くの喫茶店に行くなどして、入居者のストレスを解消する方策も取り入れている。今後、グループでのスケールメリットを更に活かした体制を構築されることが望まれる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 家庭的な生活空間づくりへの配慮、安眠への支援及び金銭管理への支援強化、ホームの広報活動等が挙げられている。外部からの視点を大切にし、ホーム内で検討しつつ、ひとつずつ改善に向けて取り組んでいる。生活空間作り及び金銭管理支援に関しても改善方向にある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホーム管理者、計画作成担当者、ユニットリーダーが中心となり、自己評価を行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、過去に3度、3ヶ月に1度のペースで、町会長・市の福祉サービス公社職員・地域のケアマネジャー・入居者家族代表・職員代表の参加の下で実施されている。その会議では、運営状況及び行事等計画報告、質疑応答等がなされ、意見交換や情報共有が図られている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族来訪時に、入居者の近況報告を行うことで家族との情報交換ができるように努めている。また、運営推進会議や家族会を通じて得られた意見に対して、ホーム内で検討後、次回の会議の折に伝える考えを持っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町会長、地主等からの情報伝達及び職員の情報収集により地域の行事予定を把握するよう努めている。近隣小学校の運動会見学、地域の子供みこしや秋祭りへの行事参加も行っている。9月にはホーム主催のバザーを開催する予定になっている。

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成19年6月26日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 15時15分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ここから堺たんぼぼ村 (大阪府)
-------------------	-----------------------------

外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 日野和臣
	氏名 今給黎多賀子
事業所側対応者	職名 管理者
	氏名 松本多賀子 ヒアリングを行った職員数 (3)人

記入方法

「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に をつけてください。

項目番号について

外部評価項目は30項目です。
「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名:

2. 調査報告書

主任調査員氏名 日野和臣 / 同行調査員氏名 今給黎多賀子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より、「・家庭的な雰囲気・穏やかな生活・いつも笑顔」をホーム独自の理念として掲げている。		これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を示す内容となっていることが求められる。今一度、話し合われる機会を持つことが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット内に分かりやすく掲示し、共有化が図られている。また、カンファレンス等の場においても、理念の実践を意識した内容での話し合いがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会長、地主等からの情報伝達及び職員の情報収集により地域の行事予定を把握するよう努めている。近隣小学校の運動会見学、地域の子供みこしや秋祭りへの行事参加も行っている。9月にはホーム主催のバザーを開催する予定になっている。		地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担い、継続的に行われることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価実施にあたり、自己評価は管理者や計画作成担当者等が中心となり、実施している。前回の評価結果の改善点を鑑み、管理者を中心に検討し、改善に向けてひとつずつ取り組まれている。		自己評価及び評価結果により見出された課題に対して、改善計画を立て、その実施に取り組まれることを期待したい。

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、町会長・市の福祉サービス公社職員・地域のケアマネジャー・入居者家族代表・職員代表の参加の下で実施されている。その会議では、運営状況及び行事等計画報告、質疑応答等がなされ、意見交換や情報共有が図られている。</p>		<p>運営推進会議は、制度的には2ヶ月に1回以上の開催が求められている。更に積極的に開催することで、ホームの状況を理解してもらいつつ、要望や助言を頂けるよう活動されることを期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険更新申請等の折に、市町村担当者を訪れ、情報収集を行う機会がある。市担当者以外にも、高齢者あんしんネットワーク会議、民生委員等との連携も図られている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族来訪時に声かけを行い、入居者の様子等を伝えている。金銭立替対応及び管理を行う場合は出納帳を活用して記録し、適時報告している。また、グループ協同による新聞を発行して、毎月郵送することで、法人としての取り組みも報告されている。</p>		<p>きめ細かな報告が家族等の安心感や満足度を高めることにつながると考える。今後、手紙等により個別具体的な報告を継続的に行われることを期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>先月の運営推進会議開催後、同日に1回目の家族会を実施している。家族等からの意見や要望等を検討し、事業所内の運営に反映させ、次回の会議の折に、今後の対応等についての報告をする予定となっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者等により、職員の想いやストレスへの配慮からヒアリングを行うことがある。職員の離職やその交代前後において、利用者への説明やその対応方法等、現在のところ確立したものは無い。</p>		<p>昨今、介護現場における離職率の高さが問題となっている。職員が長く働ける職場作りの実現に向け、更にスタッフの意見を傾聴し、相互理解を深める機会を数多く持たれることが望まれる。</p>

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び計画作成担当者が中心となり、同市内の介護支援専門員連絡会やグループホーム勉強会、また、認知症ケア等に関する外部研修へ参加することで情報収集し、事業所へ報告している。		年間を通じた内部研修計画をあらかじめ立案することで、段階的及び均等な研修機会を確保しやすいと考える。法人本部との連携の下で実施されることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内での事業所連絡会等でのネットワークを通じて、情報の共有を図りながら、質の向上に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居をして頂くことで、ホームの雰囲気に馴染めるか、また、本人が納得して共同生活を営むことができるかを体感して頂くよう配慮している。入居後にも家族と相談しながら対応を進めている。特に家族の面会機会確保の意義を伝えるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的な会話の中で、入居者の過去の経験から得られた知恵や知識を学ぶ機会があり、入居者が支援を受ける一方の関係ではない。掃除や洗濯等の役割を持ちつつ、力を発揮して頂く場面もある。		

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で、ゆっくりと話しのできる時に、入居者の意向等を把握するように努めている。意思決定の難しい方の気持ちを把握することは困難な部分があるが、職員間で共有するよう努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居前のアセスメント及び家族来訪時に意見、要望の聞き取りを行いつつ介護計画が作成され、更新時には、署名捺印により確認が行われている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月、入居者ごとに、担当者を中心としたモニタリングが実施され、記録が残されている。また、3ヶ月ごとのプラン更新を基本としつつ、変化が見られた際には、計画の見直しが行われ、サービス内容の変更へとつなげている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を活かし、往診による入居者の健康管理、退院に向けての医療機関との連絡・調整、常駐看護師の日常的な支援等、柔軟な支援がなされている。</p>		

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者及び家族等と相談し、かかりつけ医及び提携医療機関の支援を受けながら、柔軟な受診支援がなされている。内科の往診は隔週での対応が基本となっている。通院介助は基本的に家族に依頼するが、状況による支援は行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームにおける看取りの方針を入居者及び家族に対して説明し、理解を得ている。現在までのところ、看取りのケアの対象となる入居者はいない。</p>		<p>ターミナルケアに関する知識を職員が相互に確認し、習得する機会を持つことの重要性を認識している。勉強会を実施し、今後に備えられることが望まれる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者に対しての言葉かけや対応は丁寧に行われている。これまでも、個人情報保護に関する理解及び徹底を管理者より職員に対して促している。</p>		<p>勉強会やミーティングの折に、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応が出来ているかどうかを継続的に職員間で見直す機会を持つことが望まれる。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活のリズムに配慮しながら、起床や食事時間等について、本人のペースで行えるように柔軟に対応している。</p>		

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と一緒に食事を摂り、入居者の状況に応じた支援がなされている。食事の準備に関しては、基本的に職員が行っており、入居者の参画がやや少ない傾向にある。		入居者の持っている力を引き出すことの大切さを職員は重々認識している。入居者やユニットの状況に応じた支援を継続的に検証されることを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴支援を基本としてサービス提供が実施されている。入居者の状況により適時、対応がなされているが、夜間帯の入浴支援は難しい状況下にある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室内掃除・洗濯物たたみ等の役割作り、楽しみごとの支援として、これまでの趣味を継続して頂くための準備を行ったり、気晴らしの支援として入居者の好きなカラオケや日々の散歩の付き添い等、入居者と相談しながら行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩は、日課として付き添いの支援を行っている。近くの喫茶店に行き、お話をしながら気分転換を図ることもある。歩行が困難な方には、車椅子での介助を行う。市が運行するふれあいバスの利用も検討中である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の開閉は操作を有する為、入居者自身で自由な出入りをできる状態にはない。しかしながら、入居者の外出傾向を把握し、共に出かけることで安全面に配慮した支援を行っている。		立地条件等により難しい面もあるが、鍵をかけられ自由に外出できない入居者の立場に立ち、その意識を持ち続けられることが望まれる。

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時に備えた対応マニュアルは作成されている。現在までのところ、入居者参加型の避難訓練は実施されていない。</p>		<p>事業所だけでなく、消防署や地域住民等の協力を得ながら、定期的な避難訓練を実施されることが望まれる。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>給食会社の協力の下、栄養バランスに配慮した献立が考えられている。食事及び水分摂取量を毎食後確認することで健康状態の把握に結びつけている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関・廊下やユニット共有空間など各所に絵が飾られる他、観葉植物を配置したり、プランターを活用して草花を植えられ家庭的な環境づくりに配慮している。フロアーには、共同で使用できる洗い場が設置されており、ソファやテレビの設置などもあり、ゆっくりとくつろぐことが出来るようになっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内には、入居者がこれまでに使い慣れた家具や装飾品、仏壇等が持ち込まれ、安心して過ごせる環境づくりへの配慮が見受けられる。</p>		<p>持ち込み品が少ない、家族の協力を得にくい等の場合においても、一人ひとりについてその人らしい環境づくりを職員と入居者と一緒に考え、継続して行われることを期待したい。</p>

は、重点項目。